

# 過疎地域の高齢者と他出子

—三重県紀伊長島町の調査事例を通して—

石坂 督規・緑川 奈那

要旨：近年、地方の農山漁村では、「三世代同居の大家族」にかわって「高齢者のみの家族」が増えつつある。かつてのような「長男だから親との同居は当たり前」という「規範」の弱体化に加え、地方での就職難が一層深刻化する中、子どもたちは進学や就職を機に都会へと他出する。そして彼らは、とくに理由がない限り帰郷することなく都会に居住し続ける。こうして過疎化、高齢化が進む昨今、故郷の老親と離れて暮らす子どもの数は、ますます増えつつあるとあってよい。「同居規範」がゆらぎ、都会と地方での老若人口のバランスに偏りを見せる今日の日本では、都会に住む子どもが、地方に住む老親のサポートのために、頻繁に帰郷するケースも少なくないのが現状である。

こうした中、「離れて暮らす親子」の間、つまり「都会へ出ていった子ども」と「地方に残った親」との間には、どのような支援関係ないし交流があるだろうか。とくに、帰郷が容易ではない「遠距離エリア」に住む子どもたちは、どのような支援、サポートを行って老親の生活を支えているのか。本稿では、三重県北牟婁郡紀伊長島町で実施した高齢者調査の結果から、「残留高齢者」と「他出子」との関係のあり方を明らかにしていく。

## I. はじめに

これまで、子どもは高齢の親と同居しながら介護をすることが美德とされ、そうした「同居介護が望ましいという規範」が、子どもたちの中に半ば無意識的に植え付けられてきた。三世代同居が多く、そうした規範が強かった従来の日本では、介護サービスの「与え手」としての家族への支援は、まずは優先的に「同居家族」へ向けられたといえる。その結果、「同居しながらの介護負担のつらさ」を軽減するための保険・手当、休暇制度や官民のサポート体制も、都市部を中心に徐々に整備されてきた。

それに対して、高齢の親と離れて暮らす子どもへの支援は、意外にも少ないとあってよい。時として「親不孝者」のレッテルを貼られ、また、親と離れて住んでいることへの「うしろめたさ」にかられるこうした子どもたちへの援助は、「同居者優先」の日本では、常に後回しになってきた。とくに、地方の農山村においては、若年人口の流出、そして高齢者世帯の増加による過疎化・高齢化が著しく進行し、「親子同居」は困難な状況にある。子どもによる高齢者への支援、サポートも「別居」を前提として個別的に進められているものが多く、公的な、あるいは民間によるサポートも不十分である。

かつては、長男夫婦が親と同居する、いわゆる「三世代同居」が一般的であった農山村の家族も、今日ではむしろ少数派であり、高齢単身者や高齢者夫婦が多数を占める地域が増えてきた。少子化に加え、長男の「あとつき規範」の後退、（とくに男性の）未婚化・晩婚化、高学歴化、地方経済の不振（若年労働者の都市部への流出）、道路・交通網の整備にとまなう「ス

トロー化」など、様々な要因が重なり、農山村の子どもは親を残して、都市部へと他出する。他出した子は、頻繁に帰郷を繰り返しながら、親との「つながり」を維持することになるわけだが<sup>(1)</sup>、いざその親に何らかの困難が発生すると、子どもの負担は急増する。金銭的、体力的な負担の増加はもちろんだが、「同居しながらの介護」とは質的にもまた違った困難が発生するのである。

これまで、援助を要する高齢者を抱える家族への支援方法をめぐっては、その多くが「同居」という枠組みの中で語られ、また研究されてきた経緯がある。こうした別居子や他出子への支援のあり方について検討した研究は、今日においても決して多いとはいえない。

こうした中で、民間の団体（離れて暮らす親のケアを考える会）が、「遠距離介護」の実態をレポートし、話題を集めた（2001年）。その報告書には、「遠距離介護」が必要な高齢者をかかえる家族の実態が示され、介護する（「与え手」）家族の切実な意見がまとめられている<sup>(2)</sup>。しかしここでは、介護の「与え手」側である別居子、他出子の意見聴取は行われているが、介護される（「受け手」）側の高齢者の意見は、ほとんどとりあげられていない。

本稿では、こういった点を考慮しつつ、援助の「受け手」である高齢者の意見を汲み取ることとを第一義的な目的とする。そして、調査対象者を過疎地域居住の高齢者に限定することで、「遠距離」サポートの問題と過疎地域に特徴的な地域的課題との関連性についても言及していきたいと考えている。

## II. 紀伊長島町の過疎化

ここでは、「離れて住む親子」の交流・支援関係、そして他出子による「遠距離」支援、サポートのあり方について、検討をすすめていくが、まずは、調査対象地となる三重県北牟婁郡紀伊長島町の人口、世帯、高齢化の推移に着目し、この地域の過疎化の特徴を示しておきたい。

### 1. 「三段階」の過疎化

紀伊長島町は、三重県南部、ちょうど伊勢志摩・吉野熊野両国立公園の中間に位置する山と海に囲まれた自然豊かな町である。東紀州への「玄関口」にあたるこの町は、町域に熊野古道や温泉、キャンプ場などを有し、従来からの基幹産業である漁業、水産加工業に加え、観光業も盛んである。（図1）

しかし近年は、少子高齢化が進み、近隣市町村同様、高齢化や人口減少が著しい地域も目立つようになってきた。2000年には、過疎地域自立促進特別措置法にもとづく過疎地域の指定を受けるなど<sup>(3)</sup>、過疎化、高齢化もいっそう深化しつつある。とくに山間部では、高齢者のみの世帯が多数を占め、「限界」化している集落も見られる。

ここでは、紀伊長島町の人口増減や高齢化の進展の特徴を、1960年から2000年までの国勢調査のデータ（5年毎）を用いて示してみたいと思う。

表1に示された数値から読みとれることは、第一に、人口が一貫して減少していること。第二に、高齢者人口ならびに高齢化率が一貫して上昇していること。そして第三には、世帯数が増加傾向にあり、その結果として、一世帯当たりの人数が減り続けていること、などである。60年代以来、人口が減りつづけ、かつ高齢化が進行しているという点で、三重県南勢、東紀州地方の他の自治体との共通性を見ることができる。

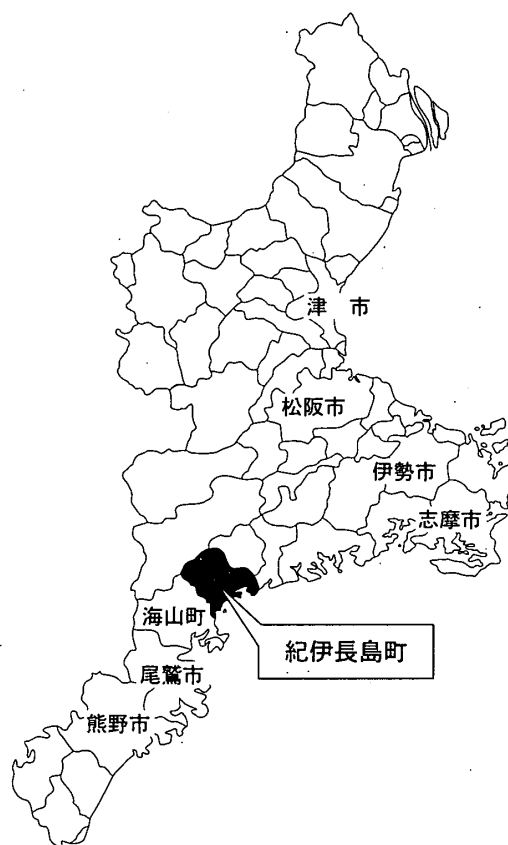


図1 紀伊長島町の位置

表1 紀伊長島町の人口、世帯等の推移 [1960-2000年]

(単位：人、%)

|                  | 1960   | 1965   | 1970   | 1975   | 1980   | 1985   | 1990   | 1995   | 2000   |
|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口              | 15,649 | 15,041 | 13,841 | 13,746 | 13,492 | 12,943 | 12,356 | 11,670 | 11,045 |
| 人口増加率(5年)        | -      | -3.89  | -7.98  | -0.69  | -1.85  | -4.07  | -4.54  | -5.55  | -5.36  |
| 65歳以上人口          | 1,054  | 1,156  | 1,309  | 1,598  | 1,827  | 2,053  | 2,353  | 2,699  | 2,989  |
| 75歳以上人口          | 334    | 362    | 408    | 508    | 635    | 807    | 984    | 1,122  | 1,328  |
| 高齢化率(65歳以上人口比)   | 6.74   | 7.69   | 9.46   | 11.63  | 13.54  | 15.86  | 19.04  | 23.13  | 27.06  |
| 高齢者で75歳以上の者の割合   | 31.69  | 31.31  | 31.17  | 31.79  | 34.76  | 39.31  | 41.82  | 41.57  | 44.43  |
| 総世帯数(a)          | 3,682  | 3,819  | 3,784  | 3,928  | 4,052  | 4,106  | 4,225  | 4,300  | 4,349  |
| 一世帯当たり人数         | 4.25   | 3.94   | 3.66   | 3.50   | 3.33   | 3.15   | 2.92   | 2.71   | 2.54   |
| 単独世帯数            | -      | -      | -      | -      | 549    | 604    | 704    | 839    | 1,017  |
| 高齢単独世帯数(b)       | -      | -      | -      | -      | 220    | 295    | 379    | 472    | 561    |
| 単独世帯で高齢者の占める割合   | -      | -      | -      | -      | 40.07  | 48.84  | 53.84  | 56.26  | 55.16  |
| 高齢夫婦世帯数(c)       | -      | -      | -      | -      | -      | 344    | 475    | 600    | 654    |
| 高齢者世帯比率((b+c)÷a) | -      | -      | -      | -      | -      | 15.56  | 20.21  | 24.93  | 27.94  |
| 過疎化(人口減少)        | 大      |        | 小      |        |        | 大      |        |        |        |
| 高齢化              | 小      |        | 中      |        |        | 大      |        |        |        |
| 超高齢化(後期高齢者の増加)   | 小      |        | 小      |        |        | 大      |        |        |        |
| 高齢者世帯化           | 小      |        | 小      |        |        | 大      |        |        |        |

注1：数値は、「国勢調査」ならびに「国勢調査報告」(各年次)による。

注2：人口増加率は、(前回調査時からの)5年間の増加率を示したもの。また、「-」は減少をあらわす。

さらに、これら人口減少や高齢化の動態、軌跡を見てみると、たとえば、人口減少率は、1965-70年には7.98%であったものが、1970-75年には0.69%と低下し、その後は減少率も5%以下に落ち着くが、1990年代に入ると再び5%をこえ、高い値を示すようになる。また、高齢化率については、年々上昇しつつあるものの、1985年まではそれが5年間で2%程度の上昇にとどまっていた。しかし、1990年代に入ると4%程度の上昇率を示すようになる。併せて、65歳以上の高齢者のうち75歳以上の者の割合についても、1990年代に入ると、それまで30%台を推移していた値が40%を上回るようになる。

このように、紀伊長島町の人口は、①1960-70年に激減、②1975-85年は微減、③1990-2000年には再び激減、という変化を見せている。また、高齢者人口については、①1960-70年、②1975-85年はともに微増（しかし、75歳以上の後期高齢者は1980年代から急増する）。そして③1990-2000年になると急増するという動きを見せる。

つまり、紀伊長島町における1960-2000年の人口減少、高齢化の動態は、「三つの段階」にわけることができる。

こうした三段階の変化は、何も紀伊長島町や三重県南勢地方に特有のものではなく、日本の過疎地域に広範に見られる特徴であるといっていよい。1960年代、高度成長真っ直中の日本では、農山村の若年人口が大量に都市部へと流れ、農山村では人口が激減（人口の社会減）する。[過疎化の第一段階]

ところが、オイルショックを機に経済成長が安定期にはいると、人口の流出は一旦とまり、農山村の人口減少率も鈍化する。[過疎化の第二段階]

しかし、1980年代後半（いわゆるバブル期）になると若年層が都市部へ流出する。さらに1990年代に入り景気が落ち込み、地域産業の不振が深刻化してくる過程で、再び若年、中年人口の流出（「人口の社会減」）が顕在化する。この結果、高齢者人口の比率が増し、農山村では、死亡率が出生率を上回る、いわゆる「人口の自然減」も加わり、いっそう過疎化が深化する。[過疎化の第三段階]<sup>(4)</sup>

## 2. 「双子」の過疎化

このような「パターン」に則れば、紀伊長島町は、まさに過疎化の「第三段階」の直中にあり、ここでは人口の社会減と自然減、そして急激な高齢化が同時並行的に進んでいる。つまり、過疎化と高齢化が同時に発生するという「双子の過疎化」が進行しているのである。高齢化率こそ27.06%（2000年）にとどまってはいるが、表1に示すように、高齢単独世帯数と高齢夫婦世帯数はともに増加し、全世帯に占める高齢者のみの世帯の割合は、高齢化率とほぼ同じ27.94%（2000年）である。人口が減少しているにもかかわらず、世帯数は増加し続け、その結果、一世帯当たりの人数が減少する。これに高齢化が加わり、過疎地域に多く見られる「高齢小家族」が形成される。紀伊長島町では、こうして、他の過疎地域同様、高齢者による「小家族」化が進行している。

もともと紀伊長島町は、同居規範がとくに強い地域というわけではなく、子、とくに長男が他出することも決してめずらしくはなかった。しかし、他出、別居する場合でも、世帯分離し、近くに居住することが多かったようである。ところが近年では、他出子は町域をこえて遠方に居を構えるケースが増え、それが、結果として、若中年者世帯の減少、高齢者世帯数の増加に結びついていると考えられる。

われわれは、こうして他出、別居した子どもたちと、紀伊長島町に「残留」する親がどのような関係にあるのかを調べるために、これまでに二つの調査を実施した。それは、紀伊長島町在住の高齢者へのアンケート調査と同町の間部集落における高齢者へのヒアリング（一次・二次）調査である。本稿では、これらの調査結果を検討しながら、高齢者と他出子との交流実態を明らかにしていく<sup>(5)</sup>。

### Ⅲ. 「残留高齢者」と「他出子」との交流実態 1

#### — 紀伊長島町でのアンケート調査より

##### 1. 調査方法

本章で示す調査結果は、2002年8月に紀伊長島町在住の65歳以上の住民を対象として実施したアンケート調査にもとづくものである。調査は、郵送法によるアンケート調査で、対象者は、選挙人名簿より無作為に抽出した65歳以上80歳未満の500名である。回収数は261、回収率は52.2%であった。以下、本文末の「単純集計表」のデータにそって、調査結果を整理してみたい。

##### 2. 単純集計表の分析

###### (1) 残留高齢者

まず、回答者の居住形態であるが、高齢単身者が22.4%、高齢者夫婦が36.9%、自分と親のみで住んでいる家族（父子・母子家族）が6.4%で、「高齢者のみの家族」が全体の3分の2を占めた。子やその他の親族と同居し、生活する者は、ここでは少数派である。子との別居が多数を占めるこの町では、「将来の暮らし方」も「だれの世話にもならないで自立して暮らしたい」という「自立型」が38.5%で、「近居型」（28.2%）と「同居型」（23.1%）を上回っている。子どもの世話になるわけでもなく、また施設に入るつもりもない、いわゆる「自力で」生活していきたいという高齢者の姿勢がうかがえる。このことは、「（生活が不自由になった場合）だれの世話になるか」という問に対する回答にもあらわれている。36.2%が配偶者と答え、同居子（12.3%）、他出子（8.8%）を大きく上回っている。女性の場合は、子どもの世話になると答えた者が多い（「夫」という回答は少ない）が、とくに男性については、子や嫁よりも、妻に世話してもらいたいとする傾向が強い。「夫を当てにしない妻」と「妻が頼りの夫」という違いが、調査結果にあらわれている。

###### (2) 他出子

この地域では、とくに長男が親と同居するという規範は見られず、長男、長女の他出がその他の子と比べて少ないということはない。

他出子の居住地についてみると、愛知県（21.5%）、三重県北中勢（20.6%）、その他近畿地方（10.7%）など、時間にすると数時間程度で通えるエリアが過半数を占める。その他、紀伊長島町内（11.6%）、1時間以内エリアの隣接町村（5.1%）や三重県南勢（9.6%）など、数時間以内で行き来の可能な地域をあわせると、8割をこえる。大多数が、数時間程度で行き来の可能な「近居型」、ないしは「中距離居住型」となっており、片道半日程度の「遠距離居住型」は2割に満たない<sup>(6)</sup>。

そして、これら他出子の帰郷回数についてみると（表2）、近距離の者ほど帰郷頻度が高くなっているのがわかる。また、その際の帰郷用件は、近くの者は「様子見」が多く、離れるにしたがって「盆正月の帰省」と答える者が増加する。近くの者が「話し相手」や「日常のサポート」というかたちで高齢者と接しているのに対し、遠くの者は「盆正月の帰省」や「冠婚葬祭」など儀礼的な、あるいは慣例的な帰郷が多い。他出先との距離の大小による帰郷目的の差が目立っているといえるだろう。

(3) 交流・支援

高齢者の他出先への訪問頻度についても、やはり距離との相関がもっとも強い。近くに居住する他出子宅への訪問回数が、遠方に比べて多いのが特徴となっている。

また、親から（帰郷した）子への援助は、「小遣い」や「交通費」など金銭によるものは1割程度しかなく、ほとんどが「自宅にあるもの、自宅でとれたもの」（45.0%）や「おみやげ」（27.5%）など非金銭的なものである。

他方、（帰郷時の）子から親への援助については、「なし」と回答する者が77.3%を占めた。ただ、「援助を受ける」場合に限ってみると、「小遣い」「生活費」「保険料等」など、何らかの金銭的な援助を受けている者が7割をこえる結果となっている。

表2 「居住地」と「他出子の帰郷頻度」のクロス

（単位：人、％）

|      |          | 週1回以上        | 月2回          | 月1回          | 2～3ヶ月に1回     | 半年に1回         | 年1回          | ほとんど帰らない    | 合計             |
|------|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|-------------|----------------|
| 近居   | 紀伊長島町    | 21<br>(61.8) | 6<br>(17.6)  | 1<br>(2.9)   | 4<br>(11.8)  | 1<br>(2.9)    | 0<br>(0.0)   | 1<br>(2.9)  | 34<br>(100.0)  |
|      | 隣接市町村    | 3<br>(17.6)  | 5<br>(29.4)  | 5<br>(29.4)  | 1<br>(5.9)   | 1<br>(5.9)    | 1<br>(5.9)   | 1<br>(5.9)  | 17<br>(100.0)  |
| 中距離A | 三重県南勢    | 2<br>(7.1)   | 7<br>(25.0)  | 9<br>(32.1)  | 6<br>(21.4)  | 3<br>(10.7)   | 1<br>(3.6)   | 0<br>(0.0)  | 28<br>(100.0)  |
|      | 三重県北中勢   | 6<br>(9.2)   | 8<br>(12.3)  | 8<br>(12.3)  | 19<br>(29.2) | 21<br>(32.3)  | 3<br>(4.6)   | 0<br>(0.0)  | 65<br>(100.0)  |
| 中距離B | 愛知県      | 0<br>(0.0)   | 6<br>(8.5)   | 9<br>(12.7)  | 13<br>(18.3) | 29<br>(40.8)  | 12<br>(16.9) | 2<br>(2.8)  | 71<br>(100.0)  |
|      | 和歌山県・奈良県 | 1<br>(10.0)  | 1<br>(10.0)  | 0<br>(0.0)   | 2<br>(20.0)  | 6<br>(60.0)   | 0<br>(0.0)   | 0<br>(0.0)  | 10<br>(100.0)  |
|      | その他の近畿   | 0<br>(0.0)   | 1<br>(2.9)   | 2<br>(5.7)   | 10<br>(28.6) | 16<br>(45.7)  | 3<br>(8.6)   | 3<br>(8.6)  | 35<br>(100.0)  |
| 遠距離  | 静岡県      | 0<br>(0.0)   | 0<br>(0.0)   | 0<br>(0.0)   | 0<br>(0.0)   | 2<br>(22.2)   | 7<br>(77.8)  | 0<br>(0.0)  | 9<br>(100.0)   |
|      | その他      | 0<br>(0.0)   | 0<br>(0.0)   | 1<br>(2.0)   | 0<br>(0.0)   | 24<br>(48.0)  | 18<br>(36.0) | 7<br>(14.0) | 50<br>(100.0)  |
| 合計   |          | 33<br>(10.3) | 34<br>(10.7) | 35<br>(11.0) | 55<br>(17.2) | 103<br>(32.3) | 45<br>(14.1) | 14<br>(4.4) | 319<br>(100.0) |

注：「帰郷頻度」のもっとも高い数値には「濃い網掛け」、次に高い数値には「薄い網掛け」を付している。

### 3. 残留高齢者と他出子との関係

このように、親子間の援助のあり方については、「親→子」のケースでは非金銭、「子→親」のケースでは金銭、という違いが見られるが、全体の傾向としては、いわゆる「モノ」や「金銭」の授受にもとづく「経済的」な支援よりも、「互いを気づかう」「話し相手になる」といった「情緒的」な支援のほうが優先されているととらえたほうがよいだろう。

高齢者の「いきがい」や「楽しみ」として、もっとも回答が多かったのは、「他出子（孫）の帰省」（58.7%）であるということから勘案しても、高齢者は、他出子に対して「帰省する」という行為そのもの、つまり経済的援助や身体的な介助ということ以上に、顔を合わせ、語りあうという「情緒的」支援関係の構築を期待していると考えられる。

日常生活は、年金やこれまでの蓄えで何とかなるし、身体的な介助が必要ななら、保険や公的なサービスを利用したり、近隣の者からの助けを借りるなどしてカバーすることができる。むしろ遠方に他出している子どもの「役割」は、こうした日常的な援助ではなく、年に2回程度の帰省、あるいは電話のやりとりのなかで維持される会話や気配りといった情緒的な援助に特化しているのではないかと思われる。

今回の調査結果から、「近居型」「中距離居住型」他出家族は「様子見」帰郷、「遠距離居住型」他出家族は「盆・正月」の帰郷、という違いがあらわれた。前者は、家業の手伝いや身体的介助を含む日常生活のトータルサポートが帰郷の主な目的となり、後者は、顔を見せ、互いの健康と無事を確認し合うといった非日常的場面での「交流」が帰郷の目的となる。そして、そのどちらにも共通するものが、公的なサポートでは決してカバーしきれない「家族としての情緒的支援」ということになるだろう。「近居」のほうが親子関係が緊密かつ良好で、反対に「遠距離居住」は疎遠かつ希薄であるということではなく、むしろ距離に応じて、親子関係のあり方が変わってくると考えたほうがよい。確かに、「近居」のほうが、帰郷回数が多いためサポート内容のバリエーションは増すことになるが、だからといって、そのぶん親子関係が良好であるということはない。「IV」で詳述するように、離れていても（あるいは、離れているからこそ）、良好な親子関係が維持されているという事例も少なくないのである。

## IV. 「残留高齢者」と「他出子」との交流実態 2

### — 紀伊長島町山間部集落での聞き取り調査より

#### 1. 調査概要

本稿のデータは、2004年8月（一次）と10月（二次）に紀伊長島町で聞き取り調査したものである。一次調査では、対象者とその子どもの基本的属性や子との交流関係などを一次資料として把握することを目的とし、8月8日～9日に、調査票にもとづいた訪問面接を行った。対象は、紀伊長島町役場保健福祉課で紹介してもらった山間部地域3地区に住む65歳以上の高齢者のみ世帯すべてである。そこで得られたサンプル数は22件であったが、調査拒否が2件、また、今回の調査目的から外れる「子をもたない世帯」が5件あったため、一次資料の分析で扱うのは、それらを除く計15の事例である<sup>(7)</sup>。二次調査では、他出子とのその距離間についてどう受け止めているのかを探るため、有意に選んだ者だけに対し、同年10月14日にさらなる聞き取りを行なった。面接時間は、両調査とも、1世帯当たり30分から1時間半であった。

## 2. 調査対象地区の地理的特徴と地域性

3地区は、田んぼが広がる山間地区の小さな集落群で、紀伊長島町の中でも高齢化と過疎化が進んだ地域である<sup>(8)</sup>。市街地にするまでは車で15分程度で、当地区内ではスーパーや老人会などがいないため、買い物や老人会への参加の際は同市街地まで行くこととなる。しかし、食料の入手に関して、今回の調査対象者の多くは、米や野菜くらいなら自分たちで作っており、また、行商も来るので、車を自分たちで運転ができない者たちでもさほど困るといったことはない。それでも足りない食材やその他日用品が必要になったとしても、バスを利用して町まで買いにいったり、近くに住む他出子などに持ってきてもらったり、一緒に買いにいったりして、日常生活における物資の入手に不自由はしていなかった。

また、この地区は親族関係にある者が非常に多い。今回の調査対象者の中でも、そういった者たちは、緊急時の助け合いはもちろん、食べ物を交換したり、子から送られてきた服を譲ったりするなどの交流が頻繁になされていた。しかし、その反面、当地域に全く親類がいない対象者たちにとっては、「田舎（当地区）は親戚がいればとても住みやすいと思うが、親戚がいないから住みにくい」ようであった。調査対象世帯で同じく親類がいない2件の者たちの話もあわせると、身内以外の者に対しては閉塞性が強い地区といえる<sup>(9)</sup>。

## 3. 調査データの分析

### (1) 対象者の属性と子の居住地

一次調査における他出子をもつ該当者世帯についての属性と子との交流関係の概要は表3に示すとおりである<sup>(10)</sup>。世帯形態は、15件中10件が単身世帯であった（連れ合いが入院中の者も単身世帯とみなす。以下同様）。そのうち、2人が男性、8人が女性であった。一方の夫婦世帯は5件であった。回答者とその家族員の年齢は、最年少で72歳、最年長者で89歳であり、分布としては、70歳から5歳ごとの区切りだと、どの年齢層も5名程度となだらかなものであった。今回の調査対象者は、65歳以上ということで紹介してもらったが、当調査地に65歳から72歳までの高齢者のみ世帯は1つもなかった。

回答者とその家族員の身体状況は、健康な者が多く、例え、身体の一部が不自由であったり、疾病を患っていたりしても、多くの場合、自分たちだけで日常生活のことは賄っていた。なお、身体的援助を受けていた者は、寝たきりである単身者（回答者番号：12）と、自分では健康とは答えていたが病気がちな単身者（回答者番号：9）の2名だけで、援助体はホームヘルパー（ディサービス）であった。

経済状況については、現在のところ、子の帰省時に小遣いなどをもらう者はいても、日常生活は全世帯とも子から自立して暮らしていた。山や田んぼなどの財産を持つ者もいるが、「年金と旦那の戦争犠牲者扶助金で暮らしているから平気」（回答者番号：3）や「（年金を）今はたくさんもらっているので贅沢できる」（回答者番号：11）などと年金と恩給の存在は大きいようであった。

子の居住地を大別すると、紀伊長島町から「同一の集落や町に住む者（近居型）」が15名、つづいて「往復に半日以上を要する遠方に住む者（遠距離居住型）」が14名であった（不明4名を除く35名中）。残りの6名は「（近居を除く）同一県内や近接府県に住む者（中距離居住型）」であった。



表3 他出子をもつ該当者世帯の属性と子との交流関係の現状

| 回答者 | 年齢<br>(※回答者) | 健康状態                        | 子の年齢  | 性別 | 居住地 | 訪問回数(年) |       |      | 子の訪問理由 | 連絡頻度(年) | 子への相談 | 子に会いたくるとき |   |
|-----|--------------|-----------------------------|-------|----|-----|---------|-------|------|--------|---------|-------|-----------|---|
|     |              |                             |       |    |     | 子から親    | 累計    | 親から子 |        |         |       |           |   |
| 1   | F            | 76※<br>膝と腰が悪い。              | N.A   | M  | 近   | 365     | 607.5 | 240  | V      | N.A     | なし    | N.A       |   |
|     |              |                             | N.A   | M  | 中   | 2.5     |       | 0    | H      | N.A     | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | 近   | 240     |       | N.A  | C      | 240     | 身体のこと | C         |   |
| 2   | C            | 76                          | N.A   | F  | 中   | 12      | 377   | 0    | V      | 18      | なし    | なし        |   |
|     |              | 72※<br>健康                   | N.A   | F  | 近   | 365     |       | 365  | P      | 365     | なし    | なし        |   |
| 3   | F            | 80※<br>聴力と足が悪い。             | 54    | F  | 近   | 168     | 338   | 48   | VC     | N.A     | 身体のこと | N.A       |   |
|     |              |                             | 52    | F  | 遠   | 2       |       | 1    | H      | N.A     | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | 48    | M  | 近   | 168     |       | 48   | VC     | 240     | 寂しいこと | N.A       |   |
| 4   | C            | 86※<br>膝が悪い(杖使用)            | 55・56 | F  | 近   | 72      | 288   | 24   | VO     | 183     | N.A   | なし        |   |
|     |              | 81<br>健康                    | 52    | M  | 近   | 216     |       | N.A  | V      | 183     | 身体のこと | なし        |   |
| 5   | F            | 83※<br>健康                   | 59    | M  | 近   | 144     | 148   | 0    | VP     | 48      | 身体のこと | なし        |   |
|     |              |                             | 57    | F  | 遠   | 4       |       | 0    | HO     | 365     | NA    | なし        |   |
| 6   | F            | 72※<br>健康                   | 52    | M  | 近   | 144     | 147   | 240  | CO     | 48      | なし    | O         |   |
|     |              |                             | 50    | F  | 遠   | 3       |       | 1    | HC     | 96      | なし    | I         |   |
| 7   | M<br>F入院中    | 83※<br>腰痛                   | 55・56 | M  | 近   | 120     | 120   | 1    | V      | 48      | 身体のこと | なし        |   |
|     |              | 79<br>妻の看病①夫②ヘルパー           | 54・55 | M  | 遠   | N.A     |       | N.A  | N.A    | N.A     | N.A   | なし        |   |
| 8   | F            | 85※<br>健康                   | 64    | F  | 遠   | 2       | 64    | 0    | H      | 240     | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | 61    | F  | 遠   | 2       |       | 0    | H      |         | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | 58    | M  | 近   | 48      |       | 0    | VH     |         | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | 56    | M  | 中   | 12      |       | 0    | VH     |         | なし    | なし        |   |
| 9   | F            | 89※<br>健康<br>週2回デイサービス      | 60代   | M  | 中   | 24      | 24    | 0    | V      | N.A     | N.A   | I         |   |
|     |              |                             | 50代   | M  | 中   | N.A     |       | 0    | N.A    | N.A     | N.A   | I         |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | 遠   | N.A     |       | 0    | N.A    | 120     | 身体のこと | I         |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | 遠   | N.A     |       | 0    | N.A    | N.A     | N.A   | I         |   |
| 10  | C            | 74※<br>健康                   | N.A   | M  | 近   | N.A     | 18    | 0    | N.A    | N.A     | なし    | なし        |   |
|     |              | 77※<br>術後、通院中。              | N.A   | F  | 近   | 18      |       | 0    | P      | 240     | なし    | なし        |   |
| 11  | C            | 80※<br>心筋梗塞                 | 52    | M  | 近   | 12      | 13.5  | N.A  | O      | N.A     | 身体のこと | なし        |   |
|     |              | 75<br>健康                    | 50    | M  | 遠   | 1.5     |       | N.A  | H      | 240     | なし    | なし        |   |
| 12  | M入院中<br>F    | 95<br>耳がとおい。ねたきり。毎日、ヘルパーが来訪 | N.A   | M  | N.A | 2       | 8     | 0    | H      | 48      | なし    | I         |   |
|     |              |                             | N.A   | M  | N.A | 2       |       | 0    | H      | N.A     | なし    | I         |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | N.A | 2       |       | 0    | H      | N.A     | なし    | I         |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | N.A | 2       |       | 0    | H      | N.A     | なし    | I         |   |
| 13  | M            | 75                          | 健康    | 34 | M   | 遠       | 3     | 3    | N.A    | H       | 240   | なし        | L |
| 14  | F            | 82※<br>胃腸が悪い。<br>週1回、通院中。   | N.A   | M  | 中   | 1       | 3     | 1    | H      | 183     | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | 遠   | 0       |       | N.A  | なし     | 12      | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | N.A   | F  | 遠   | 1       |       | N.A  | H      | 12      | なし    | なし        |   |
|     |              |                             | 46・47 | M  | 近   | 1       |       | N.A  | H      | 12      | なし    | なし        |   |
| 15  | C            | 75<br>健康                    | 48    | F  | 遠   | 1.5     | 3     | 1    | HO     | N.A     | なし    | なし        |   |
|     |              | 73※<br>健康                   | 45    | M  | 遠   | 1.5     |       | 1    | HO     | 48      | なし    | なし        |   |

注1: 「訪問回数(年)」の「累計」(値)が高いものから降順。「居住型」が「近」のものの訪問回数に「薄い網掛け」をし、また、今回、「事例」で取り上げた対象者には「濃い網掛け」を付した。

注2: 「訪問回数(年)」での滞在期間は考えない。「頻繁」・「しょっちゅう」などは、週5回で計算。「週3-4回」はその平均値(3.5)で計算。嫁だけが来る場合も算入。

注3: 「子の訪問理由」でのアルファベットは、V:様子を見るため(日常的な交流)、H:帰省(行事)、C:身の世話、P:(病院などの)送迎、O:その他、を示す。

注4: 連絡頻度の質問に「ときどき」・「たまに」と答えたものは、週1で計算。

注5: 「子に会いたくるとき」でのアルファベットは、L:寂しいとき、I:病気をしたとき、C:電話をしたとき、O:行事や田んぼのことなど、を示す。

## (2) 「近居型」の長男

まず、子の居住地と性別について見てみると、女性では「遠距離居住型」が（16名中10名）、男性では「近居型」がもっとも多かった。（19名中10名）。そして、後者に該当する子どものうち9名（回答者番号：1、3、4、5、6、7、8、10、11）は、長男という立場にあった（全長男数14名）。これらの長男は、「同居」による老親扶養の選択をとらず、「別居」という選択をとりながらも、町内や近隣市町村など、親の居住地の近くに住む者が多いという結果となった。

高齢者の回答については、回答者番号：3、9、14は将来自分の容態が悪化することがあったら「女の子は（嫁に）やった子なので、（近くに）いる長男にみてもらう」といいきっている反面、「（長男の）お嫁さんには仕事があるから、老人ホームに入る」と答えていた回答者番号：4のように、現実可能性としてみたときに長男に頼ることをあきらめてしまっているものも存在した。

## (3) 距離が及ぼす扶養機能への影響

他出子の居住地と訪問回数について見てみると、「近居型」の子の方が、「中距離居住型」「遠距離居住型」の子に比べ、訪問回数が増す傾向にある（回答者番号：1、2、3、5、6、8、11）。そして、その訪問理由に関しても、「遠距離居住型」では、正月や盆、GWなどの行事にあわせて帰省する者が多い一方で、「近居型」では、「様子をみに。買ったものを届けてくれる」（回答者番号：3/①③）<sup>(11)</sup>や、「病院や買物に連れて行ってくれる」（回答者番号：2/②）などと親の日常生活に関わった内容のものが増えてくる。逆に、親が子を訪ねる場合でも、「近居型」のところへは頻繁に行っているが、「中・遠距離型」のところへは行かない、もしくは、いっても正月ぐらいである（回答者番号：1、2、3、6）。長距離の移動に体がついていかなかったことよるところが大きく、親の方から子を訪ねるといことも限られている。

次に、「子へ相談や悩みごとをもちかけますか」との問いに「ある」と答えたのは7名で、皆に共通するのは身体に関する内容であった。そして、その中から、子の居住型分類で2分類以上含む6名（回答者番号：1、3、5、7、9、11）に着目したところ、5名の者がより近くに住む居住型分類の子に話していた。回答者番号：3（①③ [近]）<sup>(12)</sup>のケースだと、長女には「足が痛い」ときに連絡をし、病院に連れて行ってもらうようである。そして、長男には、「近くに住んでいて、すぐにこられる」という理由から、「年をとると（1人は）寂しい」といったことを話しているようである。さらに、回答者番号：1（③ [近]）のケースでも、「膝が痛むこと」を長女だけに話す理由は「家が近く、そのことを話すと膝にいいサプリメントを持ってきてくれるから」ということであった<sup>(13)</sup>。

これら2つのケースは、近くに住んでいるからという理由で、その子を選んで相談するものである。その背景には、相談内容が、身体的なものに関しても、精神的なものに関しても、「近居型」の子の方が、それらの「直接的な解決法」を持ち合わせているからということであろう。

他方、同じく近居の子に相談をしている者の中でも、「近いから」という理由のみでは相談していない者もいた。単に、距離が近いからというのではなく、むしろ頻繁な直接的交流の結果として、ともに過ごす時間が多くなる中で悩みを話すというケースも多い。たとえば、週3回程度ドライブの場で、「足が痛む」などの悩みを相談する回答者番号：5（① [近]）のケースがそれにあたる。

このように、親子間の「距離」については、居住地が近いほど、親への身体的な介助、日常的な相談といった機能は果たしやすくなるものと思われる<sup>(14)</sup>。しかし、「距離が遠い」からといって、必ずしも、親子の関係が疎遠になっているというわけではない。「近居型」の他出子は「何かあってもすぐに駆けつけられる」ものとして、親へ一種の安心感を与えるが、「遠距離居住型」の他出子はそれとはまた違った役割を担っていると考えられる。以下、「近居型」と「遠距離居住型」の他出子、別居子をもつ高齢者への聞き取り調査の結果を事例として取り上げ、両者の違いについて検討してみたい。

#### 事例1（回答者番号：4）[夫婦世帯/近居型]

##### (1) 対象者家族について

家族員：回答者（86歳）とその妻（81歳）。

健康状態：回答者本人は膝が悪く、両手に杖を持って移動する。妻はいたって健康。

職業など：夫婦で農業と山仕事を営む。

趣味・生きがいなど：回答者は「自分の車がないから趣味が限られている」ため、特別なこと。生きがいは、娘、息子に温泉に連れて行ってもらうこと。妻に関しては不在のため不明。

##### (2) 子の生活と他出の経過について

長女（55・56歳）。高校卒業後、就職先が知り合いに紹介してもらった大阪の事務職しかみつからなかったためそこに就職。「子どもが2人しかいなかった」ことから、親は「離れ離れにしたくなかった」ので、3年で戻ってくるようにと約束をかわす。時がたち再び同居が始まるが、その3年後に結婚、他出。現在は、紀伊長島町で夫、子どもたちと生活。

長男（52歳）。高校を卒業後、大工となり尾鷲市の親方の家へ入る。28歳になって修行が終わると、長島に戻ってきて再び同居。3、4年後に結婚。当初は、嫁に来てもらいこのまま対象者夫婦と同居するはずであったが、同時期に嫁の親が住んでいた家が空き家となり、嫁がそこを借家にするのが嫌だということで、長男夫婦はその家で暮らすことになる。回答者夫婦は「近くだからOKした。遠くだったら考えたが…」といている。現在は、紀伊長島町で妻、子供たちと生活。

##### (3) 交流頻度・内容

長女は週に1-2度、野菜をとりにきたり、遊びにきたりしている。長男は週に1回程度の頻度で遊びにやってくる、その嫁は週に3回おかずを運んできてくれる。逆に、妻が長女のところへ孫の顔をみに2週間に1回程度の割合で行くこともあるが、回答者本人は足が悪いので行くことは全くない。子との電話は、毎日交互に両者と連絡をとりあっている。

この回答者は、子と同居をしたいといった要望はない。「別々に暮らす方がうまくいくからいい」といっており、そして、「どんなにこの家がボロだろうが、年を経るにつれ離れたくはない気持ちは強まって」おり、元気なうちはここで暮らすという。しかし、地元を離れられてしまうと寂しいので、子には近くに住んでいてもらいたいという。現在は、子どもが2人とも近距離に住んでおり、「しょっちゅう会っている」し、「電話をすれば、すぐにかけてきて

くれる」ので、子の居住地に「距離」を感じることはなく、今の生活に満足している。

## 事例2（回答者番号：13）[単身世帯/遠距離（中距離）居住型]

### （1）対象者について

家族員：回答者のみ（73歳）男性。

健康状態：健康

職業など：グランドの管理人。

趣味・生きがいなど：趣味はなし。生きがいはグランド利用者に「いいところだ」といってもらうこと。

### （2）子の生活と他出の経過について

長男（34歳）。父親が当地区の1クラスしかない中学校の教員であったため、成績評価の際、他の保護者からいやらしい目でみられるということを経験し、中学校から妻の実家がある名古屋へ他出。長男は小さい頃から名古屋には頻りに遊びへいっており、友達もいたことから本人から出て行くといった。しかし、回答者の妻が非常に寂しがり紀伊長島町へ呼び戻した。その後、高校に通うため松阪へ行き、京都で大学進学、就職をする。現在は、妻子がいるが、本人は会社の寮に暮らすため別居している。回答者は、子に帰ってきて欲しいという希望を抱いているが、妻の葬儀の際、息子の友達がたくさん来訪し、仲がよいところをみたら、友達の少ない紀伊長島町へ帰ってこいとはいえなくなったそうである。また、就職先も土建屋ぐらいしかなく、町役場や消防員の募集がかかるたびにそのことを話そうと思うことはあっても、結局は子どもの進む道と思い、その感情を抑えてきた。

### （3）交流頻度・内容

長男夫婦が帰ってくるのは、正月、盆、GWである。回答者の方からは、数年前に妻が死ぬまでは車で月に1度、遊びにいったが、亡くなってからはほとんどいくことがなくなった。電話でのやりとりは、長男からは週3回、嫁からは週2回ぐらいの割合で、様子を心配してかけてきたり、孫の声をきかせたりするためにかけてきてくれるそうである。

この回答者は、普段から子どもや孫に会いたいという意識が強い。しかし、車で遠くまで移動しなくなった今日、電車で大荷物を抱え自分から京都に行くのはつらいという。妻と一緒に車で京都へ行っていたときは、あまり距離感というものは気にならなかったが、行かなくなった今では感じるようになった。また、妻がいなくなったとたん、急に寂しくなったという。回答者は、同居を望んでいるわけではなく、1人で住めるうちは1人で住むとっており、子がどこにいてもかまわないという。また、自分も妻の墓があるのでこの地を離れて息子夫婦と住むといったことはしたくないそうである。しかし、本心では「年をとったから、やはり何かあったときにすぐ来られる近場」に住んで欲しいと思っている。いまの生活は、「グランド管理という生きがいがあるから（子のことばかりを考えないで）やっていける」とのことだった。

回答者番号：4（他出子：近居型）は、子や嫁との頻繁な交流が確保され、交流の容態も「野菜をとりに来る」「おかずを届けに来る」など多様である。なおかつ、この回答者は、子が「近くに住んでいる」ということ自体に安心感を覚えている。「何かあったときはすぐにつ

けられる」距離に住む他出子との関係の強さがうかがえる。

他方、回答者番号：13（他出子：遠距型）は、帰郷回数こそ少ないものの、息子や嫁との関係が週数回の電話によって維持されている。子は、顔を合わせての交流は難しいが、電話による会話を通して、いわば親への「情緒的支援」を行っているといえる。事実、その電話での会話は、回答者にとって子との繋がりを感じられる貴重な時間となっている。この結果、回答者は、妻に先立たれたことへの「寂しさ」を感じつつも、グランド管理という仕事に打ち込み、それを生きがいに生活することができるといえる。「近居型」のような交流様態のバリエーションはないものの、子の頻繁に電話をかけるという「気遣い」は物理的な距離を越え、両者の緊密性を維持するものとなっている。

## V. おわりに

このように、過疎地に残留する高齢者と他出子との間には、さまざまな交流様態が存在する。交流のバリエーションや他出子の帰郷頻度は、両者の居住地の「距離」との相関が見られ、他出先が「近距離」であれば、交流のバリエーションは増し、他出子の帰郷回数、高齢者の他出先への訪問回数はともに増加する。反面、「遠距離」になると、交流は、他出子の年数回の帰郷や電話による会話などに限定され、両者の直接的な接触頻度は低下することになる。

しかし、他出先が「遠距離」であるからといって、他出子の親への関心が薄くなる、あるいは両者の関係が悪化しているということはない。「中距離居住型」ないし「遠距離居住型」の他出子の多くは、自身のライフスタイルを維持しながらも、電話で親と連絡をとりあったり、食料品や衣料品を送るなどして、残留高齢者との緊密な関係を維持しているのである<sup>(19)</sup>。遠方に他出している子の「役割」は、近くに住む子のような幅広い生活援助ではなく、年数回の帰省、あるいは電話のやりとりのなかで維持される会話や「思いやり」「気配り」といった情緒的な援助に特化されているといえる。こうした限られた支援関係ないし交流の中に、いわゆる「同居家族」には見られない親子間、世代間の「つながり」を見ることができるのである。

今後、これまで以上に若年人口の流出、そして高齢単身者、高齢者夫婦世帯の増加が進行していけば、同居をせずに「介護に通う」他出子も増加することになる。それにともなって、かれら（「他出子」）への支援も必要になってくると思われるが、その支援のあり方、手法は、「同居家族」への支援と同じものが有効であるとは限らない。むしろ、遠隔地居住者への介護休暇や手当など、いっそうの充実をはからなければならない施策も多い。残留高齢者と他出子との関係性（「つながり」のあり方、とくに情緒的援助の内容）の把握に加え、それを具体的な政策提言へと結びつけていくような実践的な調査・研究をすすめていくことも併せて考えていかなければならないだろう。

## 注

- (1) 石阪督規「瀬戸内過疎地域の高齢者生活と他出家族—広島県過疎山村の事例調査より—」『人文論叢』第19号、2002年、31-44頁。
- (2) パオッコ（離れて暮らす親のケアを考える会）「遠距離介護の実態調査報告書」2001年。
- (3) 過疎地域自立促進特別措置法は、人口減少が著しく地域活力の低下している市町村の自立促進を図り、地域格差是正と美しく風格ある国土の形成に寄与することを目的として、2000年に制定された時限立法である。三重県には、同法にもとづく過疎地域市町村が13、特定市町村が1ある。
- (4) 高度成長以降の過疎地域におけるこのような人口減少、過疎化の動態については、これまでも指摘がなされてきたことであり（山本努『現代過疎問題の研究』恒星社厚生閣、1996年、3-7頁）、その傾向については、地域的な偏差があることも無視できない。このため、安易に一般化することは危険であるが、本稿では便宜的に、過疎化の動態がこうして三つの段階を経て進展していく現象を、「三段階の過疎化」とし、日本の農山村に特徴的な現象と位置づけておきたいと思う。
- (5) 本稿は、I. はじめに、II. 紀伊長島町の過疎化、III. 「残留高齢者」と「他出子」との交流実態1、V. おわりに を石阪が、IV. 「残留高齢者」と「他出子」との交流実態2 を緑川が、分担執筆した。
- (6) ここでは、同一の集落や市町村など30分程度で行き来できる地域に居住する他出子を「近居型」（近距離居住型）、車や電車を用いれば数時間程度で行き来の可能な地域のものを「中距離居住型」、往復に半日以上を要する地域のものを「遠距離居住型」と規定し、「距離」にもとづく他出子の分類を行っている。詳しくは、石阪、前掲論文、43頁、を参照されたい。
- (7) 夫婦世帯の場合、1人で答えても、2人で答えても良いものとした。しかし、今回の調査では、同席する者はあっても、2人で答えたのは回答者番号：10だけであった。10番の夫婦の回答内容は、属性以外の回答（子に会いたくなるときや子への相談など）でもすべて同じ意見であったので、表3には影響のないものとして扱う。
- (8) 紀伊長島町における高齢者の生活実態をつかむ手がかりとしては、三重県長寿社会推進センター「長寿社会体験探検調査報告書—学生が体当たりで見てきた島ヶ原・紀伊長島の10日間—」1998年。三重県立看護大学地域交流研究センター「山村と漁村における高齢者の健康と生活報告書」2001-2002年、などがある。
- (9) 彼ら以外にも、他所から来た嫁などは、話し方や服装、その他品行などで裏口をたたかれることが多く、当地域は「よそ者」といった意識も根強くあるようである。
- (10) なお、表3は該当者の全体的な傾向をとらえるために作成したものであり、「訪問回数（年）」で提示した数値などはあくまでそのためのものなので、目安として扱って欲しい。
- (11) （回答者番号：3/①③）の①③は、回答者番号：3の第何子が該当しているかを表している。例えば、この場合、第1子である長女と第3子である長男がその回答に該当するということになる。以下同様。
- (12) 「○中○近」とは、子の居住型分類を表す。以下同様。
- (13) 近所に住む長男には話さない理由は、長男の嫁との関係を気にしてのことであった。
- (14) この結果は、森岡清美が示した「居住形態別、機能と逆機能の大きさ」に合致するものといえる（森岡清美・望月崇共著『新しい家族社会学（4訂版）』培風館、1997年、138-141頁）。
- (15) 訪問頻度は年数回でも、毎日、親に電話をかけてくる他出子もいる（回答者番号：5/②）。また、遠隔地からでも「お嫁さんが（手作りの）お惣菜を送ってくれる」（回答者番号：13）、服飾関係の職に就く長女から「近所にもわけてやれとたくさん着る物を送ってきてくれる」（回答者番号：8/①）などの報告もみられた。

## 付記

本稿は、平成16～18年度科学研究費補助金・若手研究（B）（代表：石阪督規）「農山村地域居住高齢者への遠隔地介護・支援に関する研究」（課題番号：16730253）にもとづく研究成果の一部である。

なお、現地調査にあたっては、紀伊長島町役場保健福祉課、民生委員の方々、ならびに三重大学人文学部の学生たちに協力いただいた。そして、調査対象者の皆さんには、貴重な時間を割いて、快く聞き取りに応じていただいた。あらためてここに謝意を表したい。

[資料] 単純集計表〔紀伊長島町調査：2002年8月実施〕

◆他出されている息子さんや娘さんについておうかがいします。

問1 現在、他出されている息子さんや娘さんは何人いますか。できれば、その方たちの続きから（長男、長女など）等をおしえてください。

問1a 他出子の数

|        | N   | %     |
|--------|-----|-------|
| 1 1人   | 77  | 29.5  |
| 2 2人   | 70  | 26.8  |
| 3 3人   | 49  | 18.8  |
| 4 4人   | 9   | 3.4   |
| 5 N.A. | 56  | 21.5  |
|        | 261 | 100.0 |

問1b 他出子の続柄

|        | N   | %     |
|--------|-----|-------|
| 1 長男   | 115 | 29.9  |
| 2 長女   | 119 | 30.9  |
| 3 次三四男 | 81  | 21.0  |
| 4 次三四女 | 70  | 18.2  |
|        | 385 | 100.0 |

問1c 他出子の年齢

|            | N   | %     |
|------------|-----|-------|
| 1 18歳未満    | 3   | 0.8   |
| 2 18-23歳未満 | 4   | 1.1   |
| 3 23-30歳未満 | 13  | 3.7   |
| 4 30-40歳未満 | 113 | 32.0  |
| 5 40-50歳未満 | 146 | 41.4  |
| 6 50-60歳未満 | 72  | 20.4  |
| 7 60歳以上    | 2   | 0.6   |
|            | 353 | 100.0 |

問1d 他出子の居住地

|                          | N   | %     |
|--------------------------|-----|-------|
| 1 紀伊長島町内                 | 41  | 11.6  |
| 2 隣接町村（海山町・紀勢町・大内山村・宮川村） | 18  | 5.1   |
| 3 三重県南勢地方                | 34  | 9.6   |
| 4 三重県北・中勢地方              | 73  | 20.6  |
| 5 愛知県                    | 76  | 21.5  |
| 6 静岡県                    | 9   | 2.5   |
| 7 和歌山県・奈良県               | 10  | 2.8   |
| 8 上記以外の近畿地方              | 38  | 10.7  |
| 9 上記以外の中部地方              | 2   | 0.6   |
| 10 その他（海外を含む）            | 53  | 15.0  |
|                          | 354 | 100.0 |

問1e 他出子の現在の仕事

|                        | N   | %     |
|------------------------|-----|-------|
| 1 農林水産業                | 0   | 0.0   |
| 2 自営業（農林水産業以外）         | 14  | 4.3   |
| 3 常勤の勤め人               | 218 | 66.5  |
| 4 臨時の勤め人（パート・アルバイトを含む） | 22  | 6.7   |
| 5 主婦                   | 71  | 21.6  |
| 6 学生                   | 3   | 0.9   |
|                        | 328 | 100.0 |

問2 これらの他出している息子さんや娘さんはお宅にどのくらいの頻度で、またどんな用事で帰ってこられますか。

問2a 他出子の帰郷回数

|              | N   | %     |
|--------------|-----|-------|
| 1 週1回以上      | 35  | 10.1  |
| 2 月2回程度      | 37  | 10.6  |
| 3 月1回程度      | 39  | 11.2  |
| 4 2-3ヶ月に1回程度 | 57  | 16.4  |
| 5 半年に1回程度    | 112 | 32.1  |
| 6 年1回程度      | 51  | 14.7  |
| 7 ほとんど帰らない   | 17  | 4.9   |
|              | 348 | 100.0 |

問2b 他出子の帰郷用件

|                  | N   | %     |
|------------------|-----|-------|
| 1 家業（農業や漁業等）の手伝い | 9   | 2.6   |
| 2 様子を覗に          | 117 | 34.4  |
| 3 介護や看護のため       | 7   | 2.1   |
| 4 家事の手伝い         | 5   | 1.5   |
| 5 盆や正月の帰省        | 161 | 47.4  |
| 6 冠婚葬祭           | 29  | 8.5   |
| 7 その他            | 12  | 3.5   |
|                  | 340 | 100.0 |

問3 あなたは他出している息子さんや娘さんのところを訪問されることがありますか。

|      | N   | %     |
|------|-----|-------|
| 1 ある | 127 | 69.8  |
| 2 ない | 55  | 30.2  |
|      | 182 | 100.0 |

問4 「問3で『1 ある』を選んだ方のみにおうかがいします。それでは、誰のところを、1年に何回くらい訪問されますか。

問4a 訪問先の他出子の続柄

|        | N   | %     |
|--------|-----|-------|
| 1 長男   | 58  | 28.4  |
| 2 長女   | 72  | 35.3  |
| 3 次三四男 | 35  | 17.2  |
| 4 次三四女 | 39  | 19.1  |
|        | 204 | 100.0 |

問4b 他出子への年間の訪問回数

|          | N   | %     |
|----------|-----|-------|
| 1 20回以上  | 24  | 11.9  |
| 2 15-19回 | 5   | 2.5   |
| 3 10-14回 | 21  | 10.4  |
| 4 5-9回   | 16  | 8.0   |
| 5 3-4回   | 33  | 16.4  |
| 6 2回     | 39  | 19.4  |
| 7 1回     | 63  | 31.4  |
|          | 201 | 100.0 |

問5 あなたが他出している息子さんや娘さんと連絡をとるために使う手段は何ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。

|         | N   | %     |
|---------|-----|-------|
| 1 自宅の電話 | 174 | 94.6  |
| 2 携帯電話  | 55  | 29.9  |
| 3 ファックス | 6   | 3.3   |
| 4 電子メール | 1   | 0.5   |
| 5 手紙    | 23  | 12.5  |
| 6 その他   | 5   | 2.7   |
|         | 264 | 143.5 |

問6 他出している息子さんや娘さんが帰郷した際にお金やお土産などを渡すことがありますか。最も多いケース1つに○をつけて下さい。

|                            | N   | %     |
|----------------------------|-----|-------|
| 1 交通費に相当する金額分をお金で渡すことが多い   | 12  | 6.6   |
| 2 お小遣いとしてお金を渡すことが多い        | 12  | 6.6   |
| 3 自宅にあるものや自宅をとれたものを渡す場合が多い | 82  | 45.0  |
| 4 お土産を用意して渡す場合が多い          | 50  | 27.5  |
| 5 とくに渡すことはない               | 24  | 13.2  |
| 6 その他                      | 2   | 1.1   |
|                            | 182 | 100.0 |

問7 他出している息子さんや娘さんから生活費やお小遣いをもらうことがありますか。あてはまるものに○をつけて下さい。

|                                 | N   | %     |
|---------------------------------|-----|-------|
| 1 生活費としてお金をもらっている               | 6   | 3.5   |
| 2 お小遣いとしてお金をもらっている              | 26  | 15.1  |
| 3 保険料や公共費用、家賃、入院費用などを支払ってもらっている | 3   | 1.7   |
| 4 日用品や食べ物を購入してもらっている            | 11  | 6.4   |
| 5 とくに援助はしてもらっていない               | 133 | 77.3  |
| 6 その他                           | 3   | 1.7   |
|                                 | 182 | 105.8 |

◆同居のご家族やあなた自身のことについておうかがいします。

問8 同居されているご家族は何人ですか。(あなた自身を含む)

|      | N   | %     |
|------|-----|-------|
| 1 1人 | 49  | 23.3  |
| 2 2人 | 93  | 44.4  |
| 3 3人 | 9   | 4.3   |
| 4 4人 | 25  | 11.9  |
| 5 5人 | 19  | 9.0   |
| 6 6人 | 7   | 3.3   |
| 7 7人 | 4   | 1.9   |
| 8 8人 | 4   | 1.9   |
|      | 210 | 100.0 |

問9 あなたの同居家族のタイプはどれにあてはまりますか。

|                          | N   | %     |
|--------------------------|-----|-------|
| 1 自分一人に住んでいる(独居)         | 49  | 22.4  |
| 2 夫婦で住んでいる(夫婦のみの家族)      | 81  | 36.9  |
| 3 夫婦と未婚の子どもだけで住んでいる(核家族) | 34  | 15.5  |
| 4 父子または母子で住んでいる(父子・母子家族) | 14  | 6.4   |
| 5 三世代以上一緒に住んでいる(拡大家族)    | 31  | 14.2  |
| 6 その他                    | 10  | 4.6   |
|                          | 219 | 100.0 |

問10 今後、どのような暮らし方を希望しますか。1つ選んで○をつけてください。

|  | N   | %     |
|--|-----|-------|
| 1 だれの世話にもならないで自立して暮らしたい(自立型)           | 83  | 38.5  |
| 2 子どもたちと一緒に暮らしたい(同居型)                  | 50  | 23.1  |
| 3 老人ホームなどの施設で暮らしたい(施設入居型)              | 17  | 7.9   |
| 4 自分の子どもたち夫婦と、顔をあわせられる距離に住んで暮らしたい(近居型) | 61  | 28.2  |
| 5 その他                                  | 5   | 2.3   |
|  | 216 | 100.0 |

問11 今後、今以上に生活が不自由になったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。1つ選んで○をつけて下さい。

|             | N   | %     |
|-------------|-----|-------|
| 1 配偶者(夫・妻)  | 82  | 36.2  |
| 2 同居の子ども    | 28  | 12.3  |
| 3 他出している子ども | 20  | 8.8   |
| 4 同居の嫁      | 18  | 7.9   |
| 5 他出先の嫁     | 2   | 0.9   |
| 6 兄弟姉妹      | 4   | 1.8   |
| 7 親戚        | 1   | 0.4   |
| 8 隣近所の人     | 1   | 0.0   |
| 9 老人ホームに入る  | 39  | 17.2  |
| 10 病院に入る    | 15  | 6.6   |
| 11 ホームヘルパー  | 8   | 3.5   |
| 12 その他      | 10  | 4.4   |
|             | 227 | 100.0 |



問 12 現在、あなたもしくは、あなたの同居家族が受けておられる高齢者向けの介護サービスがあれば教えてください。(いくつかでもお答えください)

|                       | N  | %     |
|-----------------------|----|-------|
| 1 訪問介護 (ホームヘルプサービス)   | 15 | 39.5  |
| 2 訪問入浴                | 4  | 10.5  |
| 3 訪問看護                | 6  | 15.8  |
| 4 訪問リハビリテーション         | 2  | 5.3   |
| 5 日帰り看護 (デイサービス)      | 19 | 50.0  |
| 6 日帰りリハビリテーション (デイケア) | 11 | 28.9  |
| 7 居宅療養指導 (医師による訪問診断)  | 4  | 10.5  |
| 8 住宅改修費の支給            | 0  | 0.0   |
| 9 その他のサービス            | 7  | 18.4  |
|                       | 68 | 178.9 |

問 13 あなたは、この土地で住み続けていくうえで、家族以外で頼りになる人や家、機関はありますか。最も頼りになるものを2つまであげてください。

|               | N   | %     |
|---------------|-----|-------|
| 1 本家や分家       | 27  | 12.3  |
| 2 妻や嫁、つれあいの実家 | 46  | 21.0  |
| 3 近くの親類       | 86  | 39.3  |
| 4 遠方の親類       | 7   | 3.2   |
| 5 隣りの人        | 12  | 5.5   |
| 6 近所の人        | 42  | 19.2  |
| 7 役場          | 7   | 3.2   |
| 8 農協・漁協       | 1   | 0.5   |
| 9 友人          | 19  | 8.7   |
| 10 他出している子ども  | 61  | 27.9  |
| 11 福祉施設・福祉団体  | 47  | 21.5  |
| 12 誰もいない      | 11  | 5.0   |
| 13 その他        | 4   | 1.8   |
|               | 370 | 168.9 |

問 14 あなたは日常生活の中でどんな時に生きがい、楽しさを感じますか。あてはまるものをいくつかでもお答え下さい。

|                               | N   | %     |
|-------------------------------|-----|-------|
| 1 仕事やうまくいっただとき                | 53  | 23.6  |
| 2 地域の人たちと話をするとき               | 72  | 32.0  |
| 3 公民館などの講座や催しに参加しているとき        | 31  | 13.8  |
| 4 地域の人たちとレクリエーションやスポーツなどをするとき | 22  | 9.8   |
| 5 講 (念仏など) に参加しているとき          | 8   | 3.6   |
| 6 同居の家族との団らんのとき               | 61  | 27.1  |
| 7 他出している家族 (子や孫) が帰省してきたとき    | 132 | 58.7  |
| 8 趣味を楽しんでいるとき                 | 95  | 42.2  |
| 9 テレビを見ているとき                  | 93  | 41.3  |
| 10 読書をしているとき                  | 42  | 18.7  |
| 11 とくに感じることではない               | 6   | 2.7   |
| 12 その他                        | 8   | 3.6   |
|                               | 623 | 276.9 |

問 15 あなたの毎日の生活で何か不満に思っていることはありませんか。不満に思うものすべてに○印をし、その中でとくに不満に思うもの1つに◎印をしてください。

|                      | N  | %     | N   | %     |
|----------------------|----|-------|-----|-------|
| 1 自分の健康状態            | 19 | 23.0  | 84  | 37.3  |
| 2 同居している家族の健康状態      | 2  | 2.4   | 40  | 17.8  |
| 3 収入が少なすぎる           | 7  | 8.4   | 45  | 20.0  |
| 4 税金が高すぎる            | 10 | 12.0  | 69  | 30.7  |
| 5 年金の受給額が安すぎる        | 13 | 15.7  | 71  | 31.6  |
| 6 農作物・水産物の値段が安い      | 0  | 0.0   | 8   | 3.6   |
| 7 仕事がつきついで           | 0  | 0.0   | 2   | 0.9   |
| 8 働きたくても働く場所がない      | 1  | 1.2   | 17  | 7.6   |
| 9 店が遠くて買い物などが不便      | 2  | 2.4   | 31  | 13.8  |
| 10 他出している子どもが帰ってこない  | 0  | 0.0   | 3   | 1.3   |
| 11 あとつぎが決まっていない      | 3  | 3.6   | 18  | 8.0   |
| 12 子どもと一緒に暮らせない      | 2  | 2.4   | 16  | 7.1   |
| 13 同居の家族との関係がうまくいかない | 0  | 0.0   | 5   | 2.2   |
| 14 近所との人間関係がうまくいかない  | 0  | 0.0   | 4   | 1.8   |
| 15 話し相手がおらず寂しい       | 1  | 1.2   | 9   | 4.0   |
| 16 電車の便が少ない          | 1  | 1.2   | 15  | 6.7   |
| 17 バスの便が少ない          | 1  | 1.2   | 24  | 10.7  |
| 18 病院や医療施設が遠い        | 16 | 19.3  | 74  | 32.9  |
| 19 地域の人の交流が少ない       | 1  | 1.2   | 4   | 1.8   |
| 20 家事の負担が重い          | 1  | 1.2   | 5   | 2.2   |
| 21 とくになし             | 1  | 1.2   | 36  | 16.0  |
| 22 その他               | 2  | 2.4   | 6   | 2.7   |
|                      | 83 | 100.0 | 586 | 260.4 |

◆あなたの町 (紀伊長島町) についておたずねします。

問 16 あなたは、この町 (紀伊長島町) に若者が定着しにくい理由は何だと思えますか。2つまでお選び下さい。

|                          | N   | %     |
|--------------------------|-----|-------|
| 1 いなかで活気に乏しいから           | 54  | 21.7  |
| 2 人情・人間関係になじめないから        | 5   | 2.0   |
| 3 働く場所がないから              | 232 | 93.2  |
| 4 通勤に不便だから               | 8   | 3.2   |
| 5 買い物事情が悪いから             | 4   | 1.6   |
| 6 住宅事情が悪いから              | 6   | 2.4   |
| 7 娯楽がないから                | 10  | 4.0   |
| 8 結婚の相手が求めにくいから          | 20  | 8.0   |
| 9 都市部に比べて収入が低いから         | 55  | 22.1  |
| 10 カルチャークラブ、サークル活動が乏しいから | 2   | 0.8   |
| 11 若者が活動できる施設が少ないから      | 41  | 16.5  |
| 12 親からの職業を継ぐのがつらいから      | 7   | 2.8   |
| 13 親と同居するのが嫌だから          | 5   | 2.0   |
| 14 その他                   | 0   | 0.0   |
|                          | 449 | 180.3 |

問 17 あなたは家のまわりの生活環境面で、役場や県、国などに整備・改善してもらいたいと思っ  
て  
ていること  
がありますか。改善  
してもら  
いたいもの  
1つに○印  
をして  
下さい。

|                      | ◎   | ○   | N     | %     | N | (%) |
|----------------------|-----|-----|-------|-------|---|-----|
| 1 幹線道路の舗装・改良         | 3   | 23  | 2.4   | 9.2   |   |     |
| 2 生活道路の舗装・改良         | 6   | 37  | 4.8   | 14.8  |   |     |
| 3 林道の舗装・改良           | 0   | 7   | 0.0   | 2.8   |   |     |
| 4 高速道路の敷設            | 20  | 62  | 16.0  | 24.8  |   |     |
| 5 バスの増便              | 5   | 38  | 4.0   | 15.2  |   |     |
| 6 鉄道の増便              | 1   | 19  | 0.8   | 7.6   |   |     |
| 7 河川の改修              | 2   | 22  | 1.6   | 8.8   |   |     |
| 8 海岸・港の改修            | 6   | 15  | 4.8   | 6.0   |   |     |
| 9 飲料水・上水道の整備         | 2   | 10  | 1.6   | 4.0   |   |     |
| 10 消防・街灯の整備          | 0   | 26  | 0.0   | 10.4  |   |     |
| 11 公民館・集会所の設置        | 0   | 9   | 0.0   | 3.6   |   |     |
| 12 学校の設置             | 0   | 0   | 0.0   | 0.0   |   |     |
| 13 公園・子どもの遊び場        | 0   | 16  | 0.0   | 6.4   |   |     |
| 14 医療施設              | 47  | 135 | 37.6  | 54.0  |   |     |
| 15 児童福祉施設(保育所など)     | 0   | 8   | 0.0   | 3.2   |   |     |
| 16 文化・スポーツ施設         | 1   | 16  | 0.8   | 6.4   |   |     |
| 17 商業施設(スーパーマーケットなど) | 1   | 9   | 0.8   | 3.6   |   |     |
| 18 交通安全施設(ガードレールなど)  | 1   | 11  | 0.8   | 4.4   |   |     |
| 19 ゴミ処理・収集           | 0   | 15  | 0.0   | 6.0   |   |     |
| 20 し尿処理              | 2   | 19  | 1.6   | 7.6   |   |     |
| 21 家庭排水の処理           | 21  | 52  | 16.8  | 20.8  |   |     |
| 22 介護サービス(ヘルパー・訪問介護) | 5   | 26  | 4.0   | 10.4  |   |     |
| 23 とくにない             | 0   | 34  | 0.0   | 13.6  |   |     |
| 24 その他               | 2   | 9   | 1.6   | 3.6   |   |     |
|                      | 125 | 618 | 100.0 | 247.2 |   |     |

◆最後にあなたのことについて教えて下さい。

問 18 あなたの年齢はいくつですか。あてはまるものに○をつけて下さい。

|           | N   | %     |
|-----------|-----|-------|
| 1 69歳以下   | 86  | 33.0  |
| 2 70歳～74歳 | 85  | 32.6  |
| 3 75歳以上   | 90  | 34.4  |
|           | 261 | 100.0 |

問 19 あなたの性別を教えてください。

|     | N   | %     |
|-----|-----|-------|
| 1 男 | 137 | 53.5  |
| 2 女 | 119 | 46.5  |
|     | 256 | 100.0 |

問 20 あなたは現在、仕事をしていますか。主なものを1つ選んで下さい。

|                      | N   | %     |
|----------------------|-----|-------|
| 1 とくに何もしていない         | 107 | 42.0  |
| 2 農業(自営)             | 17  | 6.7   |
| 3 林業(自営)             | 3   | 1.2   |
| 4 漁業(自営)             | 9   | 3.5   |
| 5 農林漁業以外の自営業         | 25  | 9.8   |
| 6 常勤の勤め人(パート・日雇いを含む) | 9   | 3.5   |
| 7 臨時の勤め人             | 23  | 9.0   |
| 8 主婦                 | 45  | 17.6  |
| 9 その他                | 17  | 6.7   |
|                      | 255 | 100.0 |

問 21 お差しかえがなければ、お宅の年間総収入(税込)をお教え下さい。

|                | N   | %     |
|----------------|-----|-------|
| 1 50万円未満       | 9   | 4.0   |
| 2 50～100万円未満   | 31  | 13.7  |
| 3 100～200万円未満  | 54  | 23.9  |
| 4 200～300万円未満  | 53  | 23.3  |
| 5 300～400万円未満  | 43  | 18.9  |
| 6 400～500万円未満  | 13  | 5.7   |
| 7 500～600万円未満  | 10  | 4.4   |
| 8 600～800万円未満  | 6   | 2.6   |
| 9 800～1000万円未満 | 7   | 3.1   |
| 10 1000万円以上    | 1   | 0.4   |
|                | 227 | 100.0 |